

篠原 徹

【今西錦司と俳句】

溪流のカゲロウの仲間が流速に応じて棲みわけ
ることを発見して「すみわけ」理論を提唱した今
西錦司は、登山家・探検家としても有名であった。
今西は生物学者として出発したが、晩年は自然学
を唱導する思想家としても活躍した。今西はきわ
めて論理的で硬質な文章を書く人であった。およ
そ今西錦司に関心をもつものなら考えられないと
言うだろうが、実は戦前彼は冬のモンゴルでの草
原行で句作を試みていたことが最近わかった。斎
藤清明さんの『今西錦司伝』（ミネルヴァ書房、
2014年）に8句紹介されているが、後にも先
も彼の句作はこれ以外にないようである。句作の
場所は現在は中国であるが、当時は内蒙古と言っ
ていたところである。私は一度だけモンゴル（当
時の外蒙古）の草原を経験した。草原とカラマツ
が卓越する森林に騎馬遊牧のための蒙古馬とヤギ・
ヒツジの群れのいる透明感あふれる風景は忘れが
たい。今西の句「雲ひくく地のはて見えず冬来る」、
「着ふとりて跨ぐに高し蒙古馬」、「霜白き枯野に食
める駒一つ」などはモンゴルの風景を活写してい
ると思つた。

自然を歩く ⑥